P 39 漢方薬更年丹による更年期障害対策について

○王秀霞、張淑藍（中国医科大学臨床第二院婦産科）

［目的］更年期障害は 更年期に卵巣ホルモンの分泌低下に伴っておこる循環系及び神経症状を中心とする症候群である。多くは４５―５５歳の間に発生している。文献によると９０％の婦人は多少の更年期障害を訴えるが１０―１５％の婦人の症状はひどくて日常の生活と仕事に影響を及ぼす。そのために漢方薬更年丹を利用して更年期障害への効果を検討してみた。

［方法］無作為に 我が病院外来の更年期障害外来を訪れた。患者から５３人選び 、全例において 本人の同意を得た後に研究を行った。更年丹（中国医科大学第二臨床病院の漢方薬工場の製品で、主な成分：菟丝子、仙茅、仙灵脾、肉苁蓉、丹参、柴胡、女贞子等20余り種類の生薬より成る）を毎日 二回，３ヶ月間連続的に服用させた。治療効果評価の目安として KUPPERMAN の採点の改善と末梢血液中の E2 と FSH のレベルの変化である。KUPPERMAN 採点をもとに７０％減少した場合「著しい有効」と 50％減少したら「有効」と５０％未満だったら「無効」とする。「著しい有効」と「有効」の和は総有効と認める。

［成績］１．更年丹の投与による治療効果は著しい有効33例(62.26%)、有効13例(24.52%)、無効7例(13.2%)、総有効率86.78%という成績を得た。2. 末梢血液中のE2レベルは治療前後には20.12 7±7.85VS53.32 8.01ng/ml，$p<0.01$ で、治療後 有意に増加し、FSH のレベルは69.35±12.14VS57.56±11.17MIU/ml（$p>0.05$）で治療後低くなる傾向を示した。

［結論］漢方薬更年丹は更年期障害の治療に有効性が認められた。